

1-(1) ぎふ長良川の鵜飼を終えて

1 令和2年「ぎふ長良川の鵜飼」の結果概要

観覧船の運航に際しては、

- ・乗船定員の削減（50%）
- ・船内飲食の禁止
- ・検温の実施 など

→ 万全な新型コロナウイルス対策を講じ、運航に努めた。

⇒ コロナ対策や豪雨、さらには外出自粛等の影響もあり、

観覧船乗船客数や運航日数が伸び悩むなど、大きな影響が生じた。

(1) 令和2年鵜飼観覧船乗船客数

今年の観覧船乗船客数は、15,310人で閉幕。

(令和元年比) **▲83.2%** (平成30年比) **▲79.9%**

(2) 令和2年鵜飼観覧船運航日数

今年の鵜飼観覧船運航日数は、102日（全157日のうち）に留まり、

運休日数は55日（新型コロナによる影響：33日、増水等による影響：22日）に及んだ。

○ぎふ長良川の鵜飼の開催延期

[観覧船の運航] 5月11日（月）→ 6月13日（土）
[鵜飼漁] 5月11日（月）→ 5月22日（金）

○7月豪雨による被害

- ・観覧船係留所の締切堤が崩壊（3年続いて）
- ・警備船2隻が流出（下流で回収し修理中）

【参考】過去の乗船客数と中止日数の推移

	乗船客数	中止(キャンセル客)		乗船客数	中止(キャンセル客)
平成26年	102,714人	9日(6,272人)	平成29年	110,412人	6日(3,975人)
平成27年	103,927人	10日(7,699人)	平成30年	76,330人	42日(35,576人)
平成28年	108,653人	10日(5,437人)	令和元年	91,178人	10日(7,766人)

2 令和2年「ぎふ長良川の鵜飼」に係るトピックス

今年は、本市と民間事業者との連携による「宿泊キャンペーン」や、

民間事業者による「実証実験」等が行われた。

⇒ 今後のぎふ長良川の鵜飼の**魅力向上**や、本市の**観光振興**につながるよう、

官民が連携し、施策に活かしていく。

3 来シーズンに向けて

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中、新たな生活様式に対応した観覧方法や、豪雨への対応も含め、今年の結果を参考にしつつ、

→安全かつ多様な方法によりお楽しみいただける**運航方法**等を検討していく。

(1) 鵜飼観覧船の運航方法（飲食及び乗船定員の緩和）

・国や県の指針、近隣開催地の運航方法に注視しながら、

→アルコールを含めた**船内飲食**や**乗船定員**の緩和

(2) 新たな鵜飼観覧方法の模索

・今年「**水上座敷**」の実証実験を**2回**実施し、お客様のニーズ等を調査。

→今後の実施に向け、内容を検討

・民間事業者とも連携し、**魅力向上につながる観覧方法**や**水辺の賑わい創出**に向け、

→**ぎふ長良川水辺空間活用協議会**においても**議論**

(3) 長期的なビジョンの策定に向けて

・現状の課題を整理し、**持続可能な鵜飼観覧船事業**に向けた運航形態を検討